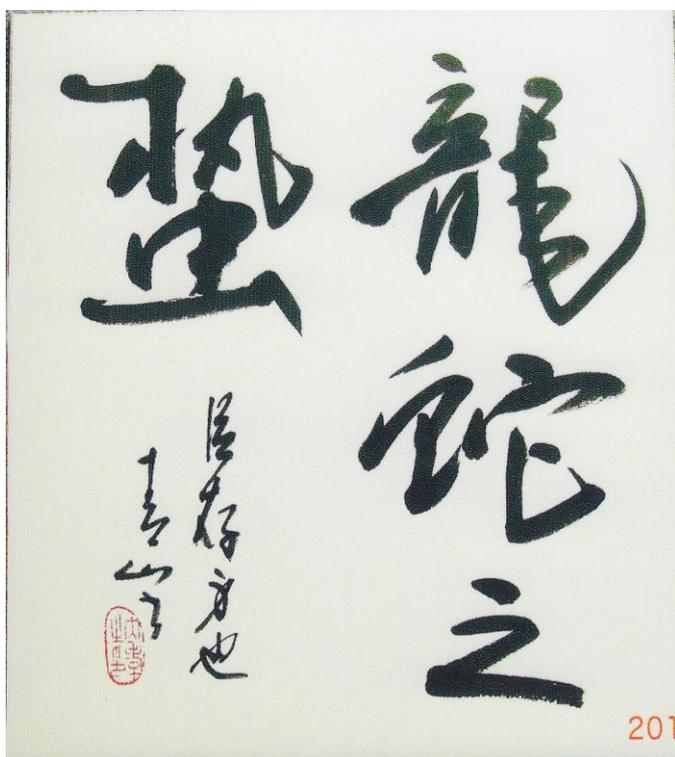


# 教職課程センターだより 第7号

発行日 2012年2月1日

## 龍 蛇 之 蟄

教職課程副センター長 大和田 孝士



新年、岩手の友人からの賀状に、「ご心配をおかけしましたが、勤務地の釜石の児童生徒、職員は全員無事でした」との文面に加えて、温かい励ましやご支援に感謝の言葉が添えられていた。そしてさらに大きな「絆」の大字が書かれている。勤務地が定かではないが、なんだか少しほっとした。

昨年は3月に未曾有の大震災があり、さらには原発事故、台風や豪雨の被害などもあり大変な1年であったと思います。政府は遅ればせながら、やっと1月5日に東日本大震災からの復興や福島第一原発事故収束の司令塔となる復興庁を、2月1日に発足させる方針を決めた。

学生諸君は、年初に際し何を思い、何を考え、どんなことを誓ったのでしょうか。4年生の諸君は、自身の進路は決まったのでしょうか。すでに就職が決まった人。やっと進むべき道を決め

ることができた人。いずれにしろこれからが本番です。大学を卒業し社会に出るといふ人生の大きな節目です。新たな門出・旅立ちです。これからが自身の真価が試される、あるいは真価を試す・発揮するときです。

3年生の諸君は、この4年間の学生生活を有意義に(有意義だったと思って)終えるためにも、就職という大きな目標を達成できるよう最後の頑張りを発揮してください。1年生や2年生の諸君も、今から新たな出発となる就職を念頭に置いた目標を定め、それに向かって一歩ずつたゆまず、楽しみながら努力してください。

ところで、今年は辰年です。色紙の文字は「龍蛇(りょうだ)の蟄(ちつ)」、続けて「以て身を存するなり」(易経)と読みます。龍や蛇が冬に蟄居・冬眠するのは、それによって永く身を保存するためである。人もあるときには退いて守らねばならないことがある、という意味です。つまり人の一時の失意なり不遇などは、時に人生経験、人生の試練として人品を磨くために、あるいは他日の発展のために必要であると言っているのです。

学生時代は、少々の失敗を恐れることなく、目標をしっかり定め、見失うことなく、時にはのんびりと休養をとり、英気を養い、目的に向かって自分の持てる力を存分に発揮して欲しいと願っています。



## 教友ゼミ フィールドワークに参加して

社会福祉学部社会福祉学科3年

松本 瞳美

教友ゼミが始まって約2ヶ月が経って、夏のフィールドワークの準備が始まりました。場所は奈良県の明日香村に決まり、各自が自転車で見学しに行くというスタイルになりました。事前学習として明日香村の歴史や文化をグループにわかれて調べ、まとめました。日本史が苦手な私は事前学習をしながらも、参加することに迷っていましたが、奈良県に行くのが初めてだったこともあり、参加することを決めました。そして、歴史の舞台となったところ実際に行くことが、今後の教員採用試験の勉強に向けての弾みになるようにと思いながら準備を進めました。当日は、曇りだった天気も奈良県に近づくにつれて快晴となり、フィールドワーク日和となりました。私は、高須先生を含め7人で出発し、飛鳥坐神社、飛鳥寺、蘇我入鹿首塚、甘檜丘、石舞台古墳と時間の許す限りいろんなところへ行きました。直接自分の目で見ることによって、印象にも残りました。さらに、“自分の今立っているところにあの歴史上の人物がいたのか！”と思い、とても感動しました。日本史はまだ苦手だけれど、実際に現地に行くことから学びたいと少し興味が湧きました。奈良県には明日香村以外にも訪れるべき場所があると知り、いつかまた行きたいと思っています。フィールドワークに行ってよかったと本当に思いました。



## 学習支援ボランティアを通して

子ども発達学部子ども発達学科

初等教育専修4年 立松尚恵

私は4年生の4月から、阿久比町の小学校でボランティアをしている。毎週月曜日、朝礼から子どもたちが下校するまで活動し、子どもたちの学習サポートを中心に行う。1学期は、5年1組に配属され、1日を5年1組の学級で過ごした。2学期からは、1時間目は2年1組で体育、2時間目は4年2組で算数…と言うように、1時間ごとに配属クラスと教科が書かれたスケジュールを渡され、このスケジュールに基づいて1日の活動を行っている。

ボランティア先の子どもたちはとても好奇心旺盛で、週1回ではあるが、毎週「また来てくれた」と歓迎してくれ、私たちが教室に入ると、たくさん質問をしてくれたり自分のことを話したりしてくれる。休み時間には、校庭や図書館、教室などで子どもたちと一緒に遊ぶ。授業では、担任の先生の目が行き届かない子どもや学習に遅れのある子どもにアドバイスをしたりヒントを示したりしながら、授業がスムーズに進むようサポートする。

阿久比町の学習支援ボランティアでは、阿久比町内の小中学校でボランティアや講師をしている学生や講師の先生に対して、教員採用試験のための勉強会を開いてくれた。ボランティアをまとめている学校の校長先生が、論文や面接、集団討議のコツや、押さえるべきポイントを教えてくれる。他の学校でボランティアをしている学生や講師の方も集まってきており、大学もみんな別々なので、たくさん情報交換をして、教員採用試験の準備をすることができた。

私はボランティアを通して、学校の実態はもちろん、たくさんの人たちとの出会いの中で本当にいろいろなことを学ぶことができた。3学期が終わるまでこのボランティアを続けながら、4月から教員になるための準備をしていきたいと思う。

## 2012年度教員採用試験（2011年実施）の結果について

昨年度の教員採用試験は、現役合格者2名、既卒合格者3名の計5名と厳しい結果に終わった。しかし、今年度は受験者の増加による競争倍率上昇にも関わらず、現役生6名、既卒者8名の計14名が第2次試験を突破し合格した。これとは別に、子ども発達学部初等専修でも9名が現役合格し、本学全体では23名が正規教員として来春から教壇に立つ。なかでも、愛知県の高校・福祉科教員に挑戦し、18倍の難関を突破して唯一の合格者となったTくんの健闘は特筆に値する。しかし、今回、東京や京都など各地の自治体に推薦で送った学生の多くが不合格となった。残念であり、悔いを残す結果となった。推薦学生は成績優秀で学力も高く、人物的にも優れている。一般試験で挑戦すれば楽に合格できる力を備えている。学生には推薦ではなく一般試験で挑戦する心構えを持たせたい。

昨年12月、教職課程センターが主催し、現役合格者体験発表会を開催した。70名を超える2・3年生が参加し、7名の合格者からの報告を真剣に聞き入っていた。合格者の報告で共通していることは、教友ゼミやサークル、学外ボランティアなど自主活動に積極的に取り組み、自らを語る力を持ち、自分の教育観、教師像を持っていることである。教採対策においては、絶対に合格するという強い気持ちで自らを律し、先輩からの情報に学び、問題分析・傾向把握などの対策をねり、自分に合った参考書を見つけ出し、小論文や記述式問題を重視した質の良い勉強法を心がけていた。

本学の教職課程履修学生の課題は第一次試験を突破する学力の獲得にある。来年度からキャリア教育のCDP講座として新たな教採対策講座が開講される予定である。そのための一助として、CDP講座や教友ゼミを大いに活用してもらいたい。

「夢は見るものではなく、実現するものである」、惜しめない努力と精進を期待する。

(文責：高須)

教員採用試験合格状況（教職課程事務作成）

| 卒業年度 | 課程登録者数 | 1次合格者数 | 2次合格者数 | 既卒者合格数 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 2011 | 138    | 13     | 7      | 8      |
| 2010 | 87     | 6      | 2      | 3      |
| 2009 | 94     | 13     | 9      | 14     |
| 2008 | 108    | 20     | 11     | 13     |
| 2007 | 132    | 12     | 7      | 5      |
| 2006 | 95     | 4      | 2      | 6      |





## 教員採用試験合格体験記

国際福祉開発学部4年 河口ひかる

みなさん、こんにちは。私は国際福祉開発学部4年の河口ひかるです。私は、埼玉県の教員採用選考試験を受験し合格しました。都道府県によって受験区分や受験内容は異なりますが、私が受験した埼玉県では特別支援教育という区分があり、私はその区分を受験しました。そのため、専門科目の試験内容は特別支援教育に関することしか出題されませんでした。試験に特別支援教育の内容しか出題されず、地元ということもあり、また特別支援教育の募集数も多いという利点があり埼玉県を受験しました。みなさんも自分に合った県（自分にとって受かりやすい県）を選ぶのも1つの方法だと思います。

勉強については、また、3年の5月から教友ゼミに参加していたことが合格への近道でした。埼玉県の1次試験は教職教養と一般教養の筆記試験（マークシート）と特別支援に関する論述（800字）のみでした。論文は教友ゼミで何枚も書いたので特に対策はせず、教職教養と一般教養を重点的に限られた問題集や参考書を何でも使い勉強に励みました。2次試験は特別支援に関する筆記試験と個人面接、集団面接、集団討論でした。面接関係も教友ゼミでやってきたことや試験が近づくことと教友ゼミで出会った仲間と集団討論の練習を自主的にしたことが力となりました。

みなさんに伝えたいことは、出会いを大事にしてほしいということです。試験が近づくにつれて勉強ばかりに集中してしまいがちですが、その中でもボランティア活動、時には教職の仲間同士の集まりなどに参加して、何か感じて学んで自分の力にしてほしいです。また、サークルやアルバイトなどすべての出会いと経験が自分自身の人間性に関わっていて、それらの経験を面接の時にも自分らしく伝えることができよう何をしたのかを思い返し、それらを教員になったときにどう活かされるのかを考えてみてください。1人1人がみんな違う人たちと出会い、違う経験をしてきています。その中で何を感じ気づいてきたかが自分の武器になります。試験前に実習があり現実には厳しいけれど、自分のペースで勉強を進めてください。私は息抜きや睡眠は大事にしました。あと、本を読むようにしました。

「本気になれば、何かが変わる」

みなさんのご健闘をお祈りします。自分らしく輝くことができますように。

## 教職課程履修学生の集い～教員採用試験合格発表会～に参加して

社会福祉学部社会福祉学科3年 水谷 美穂

去る12月1日(木)に行われた教職課程履修学生の集いに参加して、4年生7名の教員採用試験合格者から貴重なお話を聞くことができました。この会を通して、7名それぞれ異なる自治体、教科で受験されていましたが、気持ちの面では、自分の教育観をしっかりと持つことが大切だということ学びました。また、筆記試験対策ではお勧めの参考書や問題集、勉強方法を教えて頂きました。面接対策では、面接官の方は受験者が「教師になったら有効に働くか」「自分の学校に欲しいか」という所を見ていることを教えて頂きました。限られた時間の中で合格を勝ち取るには、まずは自分の受験する自治体を徹底的に分析し、自治体に合った対策をしていくことが必要であるということが分かりました。教員採用試験に関しては、分からないことが多く不安な点がたくさんありましたが、実際の体験談から様々な情報を得ることができ、不安感が無くなりました。

4年生の方々のお話は、教員採用試験に向けて長期間、努力し続けてきて合格という狭き門を突破されただけあって、教育に対する想いや生徒にかける情熱に圧倒されました。「自分は本当に教師になりたいのか」「どんな教師になりたいのか」「どんな生徒を育てていきたいのか」「どういう指導をしていきたいのか」等、考えさせられる内容で、教職に対する情熱を肌で感じることができました。4月から教壇に立たれるということで、ご活躍を願うとともに、自分も頑張ろうと思いました。

# 第5回日本福祉大学教育実践交流会を開催

— 「特別支援教育の動向」を中心に熱心に話し合う—

第5回日本福祉大学教育実践交流会を、2012年1月28日（土）に美浜キャンパスの15号館で、教職に就いている卒業生や、教職課程の在學生、教職課程担当の教員などが参加して開催した。

日本福祉大学教育実践交流会は、教職に就いている卒業生が教育実践報告を行い、卒業生同士が学び合うとともに、教職希望の在學生が学ぶことを目的として毎年開催している。

午前では、本学教職課程センター教員の高須先生の司会で、特別支援教育を担当する伊勢田先生の開会挨拶、大和田先生の講師紹介の後、1978年度の本学卒業で、現在、春日井高等養護学校校長の栗原啓二先生の「特別支援教育の動向」と題した講演が行われた。

講演では、全国の特別支援教育の概要と社会の動向を解説された後、愛知県の特別支援教育について、さらに先生の御専門である知的障害児の特別支援教育について、知的障害児童生徒増による教室の状況、発達障害等の在籍状況などの最新の具体的な数字を提示しながら説明され、最後に、知的障害教育校の過大化などの今後の課題を提起された。その後、講演についての質疑応答が、発達障害などについて活発に行われた。（講演要旨は、本学教職課程センターのホームページにPDFファイルで掲載しているのでご参照下さい。）

午後は教職に就いている卒業生が教育実践を報告し、それに基づいて質疑応答を行った。

2003年度卒業で愛知県立海翔高校の古賀明奈さんは、高校福祉科の教育を基に、教師としての自分、仲間、生徒を信じることなどを報告された。2001年度卒業で名古屋市立福田小学校の高橋雅宏さんは、小学校4年生の担任の経験から、学級のグループ活動のこと、2分の1成人式のことなどを報告された。2003年度卒業の愛知県立千種豊学校の檜垣栄慈さんは、知的障害養護学校と豊学校での授業づくりについて報告された。2008年度卒業の愛知県立春日台養護学校の大岩千尋さんは、中学部の進路指導について作業内容の写真や、作業による作成した作品なども提示しながら報告された。

それぞれの報告の後で質疑応答を行うとともに全体で話し合った。ここでは、在學生からも多くの意見が出され、コミュニケーションをとることの重要性や、介護福祉士の国家試験指導、小学校の教材研究や保護者対応、豊学校における授業指導法、養護学校の作業学習などについて熱心に話し合い大いに学びあった。

最後に、本学教員の磯部が簡単にまとめをし、来年度以降の教育実践交流会のあり方について、卒業生が参加しやすい日程も含めて検討するため、多くの卒業生の皆さんが連絡を取り合い、意見などを出していただきたいことを依頼して会を閉じた。

（日本福祉大学教職課程センター 磯部 作）



### 教師という仕事の難しさややりがいを日々感じながら

特別支援学校教諭 寺田 有輝

(2010年3月社会福祉学部社会福祉学科卒業)

私は、肢体不自由養護学校で中学部の重複障害学級の担任をしています。担任するクラスは、自分の気持ちを相手に伝わる形で表現することが難しい子や、日々の健康・安全に十分配慮が必要な子どもが多くいます。

今年度、始めて担任を受け持つことになり、「よし！頑張るぞ！」とやる気に満ちあふれていましたが、ハプニングや失敗の連続で落ち込むことも正直たくさんありました。それでも、子どもたちの笑顔を見ると、落ち込んだり悩んだりしたことも吹っ飛んでしまいます！そんなかわいい子どもたちに囲まれ癒されながら楽しい日々を送っています。

私は、子どもたちと向き合っていく中で大切にしていることがあります。まず、「共感すること」です。子どもたちに寄り合い気持ちをくみ取り共感することや、子どもの表現をじっくり待ち、その表現を言葉にして返すことです。子どもたちの思いや要求に一生懸命応えようとする姿勢が、子どもたちとの距離を縮めることにつながることを学びました。

二つ目に、「?をもって子どもを見ること」です。漠然と子どもたちを見るのではなく、「なんで今、体に緊張が入ったんだろう」「なんで今、上手く手を使うことが難しかったんだろう」など、日ごろから子どもたちの行動に対して「?」をもって見ていくことや、その背景を様々な視点から探っていくことが、子どもたちをより理解するための糸口になることを学びました。

私は、小学校6年生から教師になりたいと思い教師を目指してきました。教師になれて今は本当に幸せです。この気持ちは、教師になった人にしか味わえません！

これから採用試験受けるみなさんに伝えたいことがあります。試験勉強は確かに辛く心が折れそうになるときもあります。しかし、「絶対に教師になる！」という気持ちが自分を動かしてくれます。その気持ちを強くもち続けるためにはしっかり自分と向き合うことが大切です。試験勉強は自分と向き合う期間でもあります。ここで逃げてはもったいないです。自分を強くするチャンスです。教師になって働いている自分の姿、子どもたちの顔を思い浮かべながらガムシャラになって頑張ってください。

